Ishida Eye Clinic
News Letter

Destiny 縁 えにし

vol.02
2017 SUMMER ~ AUTUMN

Ishida Eye Clinic
News Letter
Destiny Enishi

スリランカアイバンク前にてDr.Cassim と

角膜移植前

角膜移植後

アイバンク提供の空輸箱

／スリランカアイバンクを表敬訪問／

今年4月にスリランカを訪ね、Dr.Cassimを始め職員の皆様、スリランカアイバンク協会を表敬訪問しました。

私が当院を継承した当時から角膜移植を必要とする患者さんが数多くおられました。しかし、国内での角膜の提供は少ない為、患者さんは諦めるか長い間手術を待っている状態でしたが、韓国の親友 李先生から、桐生眼科研究所の故百瀬皓先生をご紹介いただき、先生が友好関係にあるスリランカのアイバンクに角膜提供をお願いし、手術を開始いたしました。当初は提供角膜の信頼性・安全性等が非常に心配でありました。しかし、亡くなってからすぐに摘出し感染症の有無の厳しいチェックの後、クール便で空輸されてきた角膜は、若い人からの提供が多く素晴らしい状態でした。その結果、今まで２００眼以上の提供を頂き、数多くの患者さんが失明から免れることが可能になりました。

過去2回スリランカを訪問し、ご挨拶と感謝の気持ちを伝えてきましたが、今回も当院からと患者さんからの御厚志を寄付させていただきました。

今回の訪問にあたり、日本とスリランカの友好関係を再度認識するに至りました。太平洋戦争後のサンフランシスコ講和条約締結時、故ジャヤワルダナ初代スリランカ大統領は国連で「憎悪は憎悪によって止むことはなく、慈愛によって止む」という賠償を求めない有名な演説を行い、日本との間で最初の調印をされました。その後次々と各国が調印し賠償を放棄した為、日本は救われたとの事です。その後、同大統領は自分の一眼を日本に提供して頂いております。そのような所以でODA(経済協力開発機構)の最初の海外事業先がスリランカだったとの事です。

スリランカは日本に非常に友好的であり、今後もこの良好な関係を微力ながら繋いでいきたいと願っております。

石田眼科院長　石田 誠夫

Feature

特集

〈きちんと知ろう目の病気〉

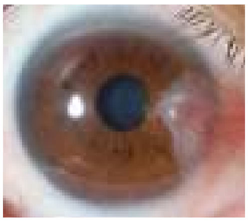
翼状片（よくじょうへん）の症状と治療法

監修
石田眼科顧問・新橋眼科院長
山口 達夫

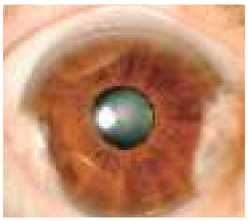
症状と原因

角膜(黒目)の中央に向かって結膜(白目)が伸びて侵入してくる病気です。通常は鼻側から伸びてくることがほとんどですが(写真1)、稀に耳側から伸びてくる場合や、両側から伸びてくる場合があります(写真2)。鏡を見ればすぐにわかり、自覚症状としては充血や異物感があります。

原因はわかっていませんが、赤道直下の人達、農業、漁業、溶接業の人達に多い事より、紫外線が関係していると言われています。また、木工場で働いている人達、埃の多い地域の人達に多いようです。



鼻側からの翼状片（写真1）



両側からの珍しいタイプ（写真2）

治療法

悪性のものではないので、症状(充血、異物感)が強くなければ治療の必要はありません。症状(充血、異物感)が強い場合は、点眼治療で症状を軽減させます。

しかし、点眼では進行を抑えることはできません。翼状片が角膜(黒目)中央まで覆ってしまうと手術をしても視力が低下してしまいますので、適度なタイミングで手術を行い切除することが必要となります。その為、定期的な経過観察が必要です。

再発し易い病気ですが、当院での再発率は約0.9%です。

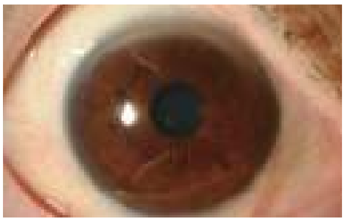


写真1の術後

補足

- 鏡でたまにチェックし、気になる場合は一度眼科を受診しましょう
- 手術は日帰りで30分程度かかります
- 手術中、痛み止めの目薬により痛みはほとんどありません

Personal profile and career

山口 達夫　やまぐち たつお

当院外眼部角膜・屈折矯正顧問 ／ 新橋眼科院長
日本眼科学会認定専門医 ／ 日本眼科学会会員
日本眼科医会会員 ／ 東京都眼科医会会員
日本角膜移植学会理事
聖路加国際病院　眼科非常勤
東京都眼科医会　会長

院長からのコメント

「山口達夫先生は大学のラグビー部の先輩であり、医局の先輩でもあります。アメリカに7年間留学されており、外眼部角膜・屈折矯正手術、治療に関しては日本の最先端の知識と経験をお持ちです。長年に渡り聖路加国際病院眼科部長を勤められた後、現在会員数2300人を超える東京都眼科医会会長としてご活躍です。また、当院の顧問をして頂いております。

この翼状片の手術に関して、山口先生は私の知る限り再発率が日本で一番少なく、世界で一番うまい翼状片手術の術者だと思います。

最新眼科医療器機紹介 スペキュラーマイクロスコープ（角膜内皮計測器械）

最新

最新機種「CellChek C」今年6月導入。様々な角膜層を詳細に観察できます。

カメラのフィルターにあたる角膜は0.50～0.60㎜の無色透明な5層からなる組織で、最下層にある内皮層の細胞数は再生する事がなく、減少すると徐々に角膜が濁ってくる病気「水泡性角膜症」を起こします。白内障術後、緑内障術後、外傷、コンタクトレンズの長期装用で生ずる事があり、定期的に観察することは重要です。これを測定する器械がスペキュラーマイクロスコープで、当院は初期のスペキュラーマイクロスコープから数台入れ替え、日本に3台しかない最先端の角膜内皮計測器械を最近導入しました。この器械を導入することは、患者さんの失明からの予防に更に役立つこととなり、また、雪国から世界へ情報発信できるのではないかと思っております。

歴代スペキュラーのご紹介

4代目

4代目スペキュラー「CellChek plus」。主に白内障術前で使用中。

3代目

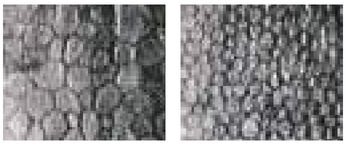
3代目スペキュラー。主に白内障術後、コンタクトレンズ装用の測定で使用中。

2代目

2代目スペキュラー。糸魚川クリニックで使用中。

初代

初代スペキュラー。



（右）正常な角膜内皮細胞
（左）内皮細胞が減少している状態

水泡性角膜症

近視矯正治療 ～レーシックから最も安心安全な「フェムトイントラ」の新時代に！！～

フェムトイントラレーシックとは厚生労働省が認める2つの器機（フェムトセカンドレーザーとエキシマレーザー）を使い、レーザーによる治療で視力を矯正する方法です。従来のレーシックとは異なり、より安全・確実な治療です。

最近のフェムトイントラレーシックを受けた方の結果です。

	治療前	治療後	
30代男性	右 0.03 左 0.03	右 1.2 左 0.7	裸眼でスポーツ、読書が出来て嬉しいです
30代男性	右 0.08 左 0.08	右 1.2 左 1.2	コンタクトレンズから解放されて快適な生活を送っています

興味のある方は ☛ 〈 無料説明会開催中 〉

＊銀行などのローンを利用することで、コンタクトの購入と同じような負担で治療を受けられる様になりました。

平成28年手術件数報告（平成28年1月～平成28年12月）

- 白内障手術 1534件
- 網膜硝子体手術 160件
- 眼瞼下垂手術 64件
- 硝子体注入 354件
- 緑内障手術 41件
- 翼状片手術 44件
- 斜視 6件
- 近視矯正手術（フェムト・イントラ他） 48件
- 角膜移植 20件
- 外眼部手術（結膜腫瘍等） 22件
- 涙嚢鼻腔吻合術 10件
- その他 48件

（計2351件）

Ishida Eye Clinic News Letter
Destiny 縁 えにし
2017 SUMMER - AUTUMN vol.02

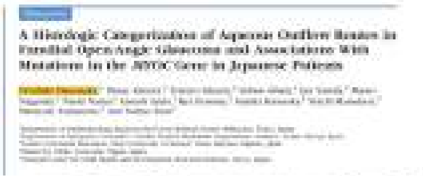
勉強会・行事報告

上越眼科フォーラムで 日本大学医学部眼科教授 山上聡先生が講演

6月2日、当院において、上越眼科フォーラムを開催しました。「角膜の外科治療と白内障手術」をテーマに、日本大学医学部視覚科学系眼科学教授 山上聡先生が講演されました。

濱中輝彦先生が共著された論文がIOVSに掲載

当院緑内障顧問 濱中輝彦先生が共著された論文が緑内障について世界的に権威のある雑誌「Investigative Ophthalmology & Visual Science（IOVS）」に掲載されました。



A Histologic Categorization of Aqueous Outflow Routes in Familial Open-Angle Glaucoma and Associations With Mutations in the MYOC Gene in Japanese Patients

レーザー白内障手術のフォーラムに参加

5月28日、東京で行われました「Alcon Femtosecond laser assisted cataract surgery Forum」に、石田院長と金子師長、太田師長が参加しました。

学会総会に参加

6月17日、金沢で行われました「第73回日本弱視斜視学会総会」と「第42回日本小児眼科学会総会」に、当院のスタッフ3名が参加しました。

永年勤続者を表彰

5月24日、上越医師会主催の永年勤続者の表彰式が行われ、当院からは勤続20年3名、10年2名、5年6名が表彰されました。「企業は人なり」。長年務めてくれている数多くのスタッフに感謝です。

糸魚川クリニックの外観

糸魚川クリニックのスタッフ一同

糸魚川クリニックが開院20周年を迎えました

石田眼科を継承した当時、西頸城地区の数多くの患者さんが祖父、父の時代から通院されている事に気付きました。遠路はるばる負担を強いていることを強く感じ、患者さんのために糸魚川の地に理想的な分院を作りたいと思っておりました。その際、偶然に糸魚川市出身である松木佐代子先生を知る機会がありました。その『御縁』で先生に東京女子医大から帰ってきて頂き、分院院長をお願いし、石田眼科 糸魚川クリニックを開設しました。皆様のお蔭で昨年11月に20年を迎える事が出来ました。これからも大いに西頸城の方々と交流し、最先端の医療を上越全体に広げることが私の夢です。

専門外来のご案内［8月・9月・10月・11月］ なお、専門外来は予約制となっております。詳しくはスタッフにお尋ねください。

網膜硝子体専門外来	順天堂大学浦安病院	眼科准教授	本田　美樹先生	8/16、9/20、10/18、11/15
	富山大学附属病院	眼科教授	林　篤志先生	8/21、9/2、10/7、11/20
	順天堂大学練馬病院	眼科教授	横山　利幸先生	10/20、11/17
	順天堂大学浦安病院	眼科准教授	清川　正敏先生	9/9
	聖路加国際病院	眼科部長	大越　貴志子先生	10/21
	京都府立医科大学	眼科助教授	米田　一仁先生	11/25
緑内障専門外来	日本赤十字社医療センター	前眼科部長	濱中　輝彦先生	8/24、8/25、8/31、9/1、9/21、9/22、10/5、10/6、10/19、10/20、11/9、11/10、11/30
	東京大学医学部附属病院	眼科教授	相原　一先生	11/18
角膜屈折矯正専門外来	聖路加国際病院	顧問	山口　達夫先生	8/19、10/21、11/18
			小林　顕先生	9/30、11/11
	京都府立医科大学眼科学教室	講師	稲富　勉先生	8/26
眼形成・涙嚢専門外来	東邦大学医療センター大橋病院	非常勤講師	矢部 比呂夫先生	9/28、10/26
	井上眼科医院	特別顧問	山崎　守成先生	10/28
	聖隷浜松病院 眼形成眼窩外科	主任医長	上田　幸典先生	11/11
小児眼科	順天堂大学練馬病院	眼科教授	横山　利幸先生	9/29、9/30
視神経専門外来	帝京大学医学部附属病院	眼科教授	溝田　淳先生	11/4

●発行所　石田眼科医院 新潟県上越市本町2-2-31　●発行日　2017年8月16日　●発行責任者　石田 誠夫